

京都大学アカデミックデイ2022 ～創立125周年記念～

『研究者の本棚』 ブックリスト

京大力、新輝点。



項目説明

ブックリストとは・・・京都大学研究者のオススメの本を紹介します。
※一部を除き、紹介した本は「研究者の本棚」で展示しています。

ブース番号 出展者のブース番号

出展者等 出展区分
「研究者と立ち話（ポスター／展示）」
「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」
 出展代表者の所属・職名・氏名
 出展研究者の出展タイトル

ジャンル 今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本
 今ハマっている本
 若者にお勧めしたい本
 自分の研究に関連して紹介したい本の4つから選択していただきました。

書名/著者名/出版社名 オススメする本の書名／著者名／出版社名

推薦理由、コメントなど オススメする理由、コメントなど



ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ブーム1	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医学部附属病院・特定研究員 上田潤 『神経変性疾患の病態解明と治療にむけて』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『老化はなぜ進むのか：遺伝子レベルで解明された巧妙なメカニズム』 近藤祥司 講談社	大学生の時に基礎研究のラボに実習に行きつけになった本です。老化のメカニズムや老化に関する研究について、わかりやすく解説されています。
		若者にお勧めしたい本	『逆境を笑え：野球小僧の壁に立ち向かう方法』 川崎宗則 文藝春秋	元メジャーリーガー川崎宗則選手の半生と、その経験から学んだことが書かれています。研究とスポーツという分野の違いはあれど、環境を変えることを恐れずに、新たな事に挑戦し続ける姿勢など学ぶべき点が多いと感じました。
ブーム2	研究者と立ち話（ポスター/展示） 工学研究科・教授 竹内繁樹 『光子のふしぎな性質と量子技術への応用』	自分の研究に関連して紹介したい本	『量子コンピュータ：超並列計算のからくり』 竹内繁樹 講談社	光の不思議と、量子コンピュータについて書いた本です。今回の話に興味を持って頂いた方には、ご褒美プレゼントしたいと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『光と物質のふしぎな理論：私の量子電磁力学』 リチャード・P. ファインマン、釜江常好（訳）、大貫昌子（訳） 岩波書店	ファインマン先生がノーベル賞を、朝永先生と共同受賞された量子電磁気学を、なんと数式をつかわずに説明した本です。私は学生の頃によく、目からうろこが落ちる気がしたのを覚えています。
ブーム3	研究者と立ち話（ポスター/展示） iPS細胞研究所・特定研究員 鈴木美香 『人生を穏やかに過ごすために必要なこと』	若者にお勧めしたい本	『マンガで学ぶ生命倫理：わたしたちに課せられた「いのち」の宿題』 児玉聡、なつたか（漫画） 化学同人	再生医療やら脳死臓器移植やら、「夢の医療」などと報道されるけど、そんなにバラ色なの？そもそも、脳死ってなんだっけ？生き死にの問題は、身近なことであり自分で考えなくてはならないのですが、難しいし辛気くさいし、ハードルが高いですね。この本は、女子高生の日常を軸にして、脳死や生殖医療、クローン技術など、生命倫理の問題を学びつつ、考えられるように工夫されています。是非手にとってみてください。
		若者にお勧めしたい本	『夜と霧』 V.E.フランクル、霜山徳爾（訳） みすず書房	ナチスの強制収容所という極限の状態におかれた精神分析の学者フランクルが人間を洞察した記録。人間とは、人生とは、愛とは、尊厳とは…を静かに問いかけています。読むたびに新しい発見がありますので、まずは若い時に是非一度読んでみてください。
		今ハマっている本	『存在の耐えられない軽さ』 ミラン・クンデラ、千野栄一（訳） 集英社	人生は一度きりしかなく、どのような選択も偶然でしかなく、いずれも軽い。しかしその軽さが虚しさになるのに人は耐えられず…。1968年、ソ連の侵攻により人間の存在が蹂躪されつつあるチェコで、出会いも偶然で何の重みもないというドンファン風の男、それを愛する女、すべてを否定する愛人の三角関係が織りなす人間模様を通じて、人の存在とは何か、幸せとは何かを問いかけてきます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『今ここを生きる勇氣：老・病・死と向き合うための哲学講義』 岸見一郎 NHK出版	老、病、死は誰もがいずれ直面することです。それらを回避できないという真実は誰にも変えられません。では変えられるものは何かと問えば、それは自らの「意識」以外にはないことに思い至った筆者の「絶望するのではなく、希望をもつこと。」「今ここに目を向け、一瞬一瞬を真剣に、丁寧に生きること。」等のメッセージに、みなさんにも触れていただけたらと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『医師の一分』 里見清一 新潮社	人工呼吸器や胃ろうなど生命維持装置が開発されたことはよいことではありますが、多臓器不全の高齢者につけられて、ただ死が先延ばしにされている状況も生むようになりました。この状況は、誰かが望んでいるのでしょうか。著者は、治らないけれど生きていかなくてはいけないがんの患者とともに歩きながら、医師は何をどうすべきかを問いかけます。こういう先生ばかりだったら「がん難民」などなくなるのに。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ブーム4	研究者と立ち話（ポスター/展示） 高等研究院・研究員 村松明穂 『動物園でサルの社会をのぞくくらべる』	自分の研究に関連して紹介したい本	『大人のための動物園ガイド』 成島悦男 養賢堂	動物園を訪れる「大人」も、近年では、子ども連れの方だけではなく、ご自身の趣味としてという方が増えてきました。動物園を楽しむコツが紹介されている1章を読んで、ぜひ動物園に足を運んでいただければと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『霊長類図鑑：サルを知るとはヒトを知ること』 日本モンキーセンター（編） 京都通信社	霊長類専門の博物館・動物園である「日本モンキーセンター」による、霊長類全181種を紹介する図鑑。カラーでそれぞれの種の生息環境・食性・生態を知ることができ、動物園や動物番組の「予習・復習」にも役立ちます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『たちまわるサル：チベットモンキーの社会的知能』 小川秀司 京都大学学術出版会	野生チベットモンキーの研究者による著書。チベットモンキーの生態や生息環境の様子が分かるだけでなく、フィールドワークを行う研究者としてのエピソードもたくさん載っています。チベットモンキーのことを、ますます好きになれる1冊です。
ブーム5	研究者と立ち話（ポスター/展示） 文学研究科・助教 伊藤淳史 『埋もれた古道から探る地域の歴史』	自分の研究に関連して紹介したい本	『通論考古学』 濱田耕作 岩波書店	日本における体系的な考古学の概説書として、最初に刊行されたもの。1922年の出版から94年を経た2016年に文庫化。日本で考古学を学ぶ者は、必ず1度は目を通すことを求められる、ある意味「懐かしい」書籍。しかし、発掘調査や、遺跡・遺物の研究と活用を進めるうえでの知識と理念の基本が漏れなく説かれる本書は、時代を経て、科学技術がいかに進歩しようとも、繰り返し紐解かれるべき書籍であることがわかります。
ブーム7	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医学研究科・教授 佐藤俊哉 『臨床試験を科学するー臨床統計学』	若者にお勧めしたい本	『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ』 佐藤俊哉 岩波書店	YouTubeでアニメも公開されています。 みんなで観てね。
		今ハマっている本	『建築を気持ちで考える』 堀部安嗣 TOTO出版	居心地のよい空間ってありますよね。そこはなぜ気持ちがいいのか、意識したことがありますか？私は家を建てるまで考えたことがありませんでした。京都には、はっとさせるような、あるいはしっとりとしたような、素晴らしい空間がたくさんあります。しかし京都は人工都市ですから、その感動は誰かがつくったものなのです。興味を持った方は、この本を片手に大徳寺高桐院に行ってみてください。気持ちいいという感覚は、作り手の想いからもたらされていたことがわかるはずです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『物理と対称性：クォークから進化まで』 坂東昌子 丸善	物理学者の坂東先生の著書です。震災後に縁があって一緒に仕事をすることになりました。そこで気づいたのは、我々の専門は生物統計学と素粒子物理学で異なるにもかかわらず、数学的なもの見方には共通項があるということです。本書は、対称性に注目してさまざまな自然現象を抽象的・数学的に表現する方法を語ってくれます。本書を読むと、ユークリッド幾何学、アフィン幾何学、射影幾何学、トポロジー、群論といった数学が実に豊かであることに気づきます。
ブーム8	研究者と立ち話（ポスター/展示） 地球環境学堂・准教授 真常 仁志 『アフリカで衛生環境と暮らしの向上を』	今ハマっている本	『途上国の人々との話し方：国際協力メタファシリテーションの手法』 和田信明、中田豊一 みずのわ出版	途上国での援助を考えている人だけではなく、教育に携わっている方、必読です。目から鱗です。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『深夜特急』 沢木耕太郎 新潮社	海外へ旅して、生活する憧れの始まりは、この本だった気がします。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『土 地球最後のナゾ：100億人を養う土壌を求めて』 藤井一至 光文社	土の重要性がよくわかる読みやすい本です。
		若者にお勧めしたい本	『猛き箱舟』 船戸与一 集英社	自分の知らない世界がこれほどにも広がっていることに気づかされ、衝撃を受けた冒険小説です。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ブーム9	研究者と立ち話（ポスター/展示） 理学研究科・博士課程 中田 嘉信 『素粒子で宇宙の謎を解く』	今の仕事（研究、進路）を選ばずきっかけになった本	『宇宙創生』 サイモン・シン 新潮社	ビッグバンが仮説の域を超えて、世界を記述する理論として確立されていくドラマを描いた本。宇宙論の歴史を科学読み物として楽しく紐解くことができる。現代でも未知な事象がゴロゴロ転がって、自分もその研究の一端に携われるって最高。
		今ハマっている本	『入門 現代の宇宙論：インフレーションから暗黒エネルギーまで』 辻川信二 講談社	宇宙論の本の多くは一般相対論の知識を仮定していて敷居が高いが、この本はそうはせず、付録での解説にとどめている。もちろんしっかり宇宙論を理解するには一般相対論が必要だろうが、ざっくりと「宇宙論とはどんな分野か」をつかむのには良さそうだと感じる。
		若者にお勧めしたい本	『宇宙への秘密の鍵』 スティーヴン・ホーキング、ルーシー・ホーキング、さくまゆみこ（訳） 岩崎書店	宇宙物理学者のスティーヴン・ホーキング博士とその娘により「地球が直面している問題は、もはや地球だけでは解決できない。未来のため、子どもたちに広大な宇宙への興味・関心を持って欲しい」という願いから書かれた物語。老若男女誰でも楽しめるスペース・アドベンチャーを通して、宇宙にワクワクする世界が広がっていることを教えてくれる。このシリーズを小学生高学年で読み、宇宙や素粒子に興味を持つきっかけとなった。
		若者にお勧めしたい本	『ホーキング、宇宙と人間を語る』 スティーヴン・ホーキング、レナード・ムロディノウ、佐藤勝彦（訳） エクスタレッジ	筋萎縮という病に侵されながらも物理学の最先端を走り続け、その哲学にも大きな影響を与えたホーキング博士。原子や分子はただの幻想か、はたまた実在する何かなのか、目に見えないものを私たちはどう捉え解釈すれば良いのか...根源的な科学哲学から最先端物理の紹介まで非常に幅広い考えがまとまれており、お気に入りの一冊です！
		自分の研究に関連して紹介したい本	『現代素粒子物理：実験的観点からみる標準理論』 末包文彦、久世正弘、白井淳平、湯田春雄 森北出版	素粒子物理の基礎的なことが歴史的経緯と共にまとめられている。実験系の物理学者が書いており、歴史的発見が行われた過去の実験がたくさん紹介されていて面白い。
ブーム10	研究者と立ち話（ポスター/展示） 学際融合教育研究推進センター・特定助教 祐野 恵 『健康データと自治体の政策づくり』	今の仕事（研究、進路）を選ばずきっかけになった本	『職業としての政治』 マックス・ウェーバー、脇圭平（訳） 岩波書店	政治に身を置く者が、備えるべき資格と覚悟について説く。1919年のウェーバーの講演をまとめた内容でありながら、現代にも通じる問題を提起しており、あるべき政治家の姿を考えるうえでお勧めです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『代議制民主主義：「民意」と「政治家」を問い直す』 待鳥聡史 中央公論新社	現代民主主義国家で採用されている代議制民主主義について、歴史や制度の観点から読み解く1冊。政治について、選挙制度、執政制度の視点から理論的に理解し、政党の役割を検討するうえでお勧めです。
		若者にお勧めしたい本	『公共政策規範』 佐野 巨 ミネルヴァ書房	政策を評価する際に必要となる価値基準について、自由主義、功利主義、本質主義の観点から、それぞれの長所と短所を説明する。政策の良し悪しを判断する難しさや奥深さを感じられる1冊としてお勧めです。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ブーム11	研究者と立ち話（ポスター/展示） 工学研究科・講師 小見山 陽介 『アップサイクルによるCLT端材の再製品化』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『Shuffled：古谷誠章の建築ノート』 古谷誠章 TOTO社	プロフェッサー・アーキテクト（大学に教員として所属しながら、建築家としても設計活動が続ける人）ってこういうものの考え方をするんだ、と初めて知った本。研究から創作までが連続した思考のもとで語られ、建築の設計をしながら大学でも学生たちと最先端の建築学を研究する、という現在の僕自身が目指す仕事の仕方を決定づけました。
		今ハマっている本	『白い壁、デザイナードレス：近代建築のファッション化』 マーク・ウィグリー、坂牛卓（訳）、遠見浩久（訳）、岩下暢男（訳）、天内大樹（訳）、岸佑（訳）、呉鴻逸（訳） 鹿島出版会	建築の歴史において当たり前のように受け入れられてきた「白い近代建築」の理由を、建築とファッションなど分野横断的な視点で読み解いた本です。研究室の学生が修士論文の参考図書としたことがきっかけで原書を読んでいたのですが、待望の邦訳版が出たので改めて読んでいます。建築を見るとき視野が広がります。
		若者にお勧めしたい本	『図面でひもとく名建築』 五十嵐太郎（著・編）、菊地尊也（著・編）、東北大学五十嵐太郎研究室（著・編）、野口理沙子（イラスト）、一瀬健人（イラスト） 丸善出版	小見山も執筆者のひとつとして参加しています。ル・コルビュジエ、フランク・ロイド・ライトら近代建築の巨匠をはじめ、フランク・ゲーリー、SANAAの現代建築、薬師寺東塔、シャルトル大聖堂等の歴史建築まで、66の事例について具体的な図面の読み解き方をQ&A形式で解説しています。広い建築の世界を知る入門書の一つとしてお勧めです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『建築情報学へ』 建築情報学会（監修）、大野友資ら著者25名 millegraph	第2章を小見山が執筆しています。「情報によって建築は、より領域横断的、より動的、より拡張的なものになるだろう」を合言葉に、常に異領域や新技術から影響を受けながら変化し続けてきた建築の歴史を書きました。産学連携や異分野の先生方との協働に新しい建築の可能性を見ている自分自身も勇気づけられる本です。
ブーム12	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医学研究科・准教授 葛谷 聡 『認知症の病態研究から治療まで』	若者にお勧めしたい本	『普及版 モリー先生との火曜日』 ミッチ・アルボム、別宮貞徳（訳） NHK出版	自分の人生をどう生きたら良いのかと悩む人に読んで欲しい本です。難病ALSと診断されながらも前向きにその人生を送るモリー先生の話を読んで、より良い人生を送るきっかけとなれば嬉しいです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『アルツハイマー征服』 下山進 KADOKAWA	アルツハイマー病の研究史を網羅しながら、読み物としてもおもしろくかかれています。米国FDAが承認し話題となった「アデュカヌマブ」開発について知りたい方にもおすすめです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『普及版 100歳の美しい脳：アルツハイマー病解明に手を差しのべた修道女たち』 デヴィッド・スノウ、藤井留美（訳） DHC	「アルツハイマー病を発病しても、症状が現れない脳がある。678人の修道女が協力するユニークな研究『ナン・スタディ』（出版元紹介より）」。「若年期の生活習慣が老年期の認知症発症に大きく関わる」という、今では一般的となった考え方に大きな影響を与えた研究の報告です。
ブーム13	研究者と立ち話（ポスター/展示） 総合博物館・教授 本川 雅治 『大学博物館の標本と生物多様性科学』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『西洋事情』 福澤諭吉、マリオン・ソシエ（編集）、西川俊作（編集） 慶應義塾大学出版会	「博物館」という言葉をMuseumの訳語として、はじめて使ったのが福澤諭吉のこの『西洋事情』といわれています。そして、明治時代になって日本にはじめての博物館が作られました。日本の博物館や標本の歴史を考えると興味深い本です。博物館や標本の概念やその国際比較について私が取り組むきっかけになりました。
		今ハマっている本	『標本の本：京都大学総合博物館の収蔵室から』 村松美賀子、伊藤存 青幻舎	博物館には多様な標本があります。博物館で研究していると自分の専門にとらわれて意外と標本を見ていないことがあるような気がします。この本は研究者ではないお二人が、京都大学総合博物館の収蔵室の標本をみて感じたことや、たくさんの写真がもともとなった本です。私にとって新鮮さや驚きをもって楽しめる本です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『日本のネズミ：多様性と進化』 本川雅治（編） 東京大学出版会	森に住むネズミの多様性を多方面から探ろうとしたものです。身近でありながら、あまり知られていない動物の実態を解明するには、フィールドワークが重要です。また、そこから博物館標本も生みだされていきます。フィールドで感じたことややみらめたことが興味深い研究成果につながることも知ってもらいたいです。
		若者にお勧めしたい本	『標本バカ』 川田伸一郎、浅野文彦（イラスト） ブックマン社	国立科学博物館のモグラ博士の標本作製と収集の日々を綴ったエッセイ集です。標本を扱う仕事といってもなかなか想像できないかもしれません。この本を読むことで標本とともに楽しく刺激的に働く仕事の世界を少しでも知ってもらえたらと思います。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ブロム14	研究者と立ち話（ポスター/展示） 工学研究科・助教 白下部 武敏 『水銀フリーの未来における水銀リスク？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『環境マインドで未来を拓け：いのちをまもる工学の60年』 「環境工学への誘い」刊行委員会（編集） 京都大学学術出版会	日本の環境工学が創設されたのが、約60年前です。多くの先駆者が日本の環境を良くしようとがんばってきました。未来に向けて挑戦していく時に、今まではどうだったのかを理解する上で良い本ではないかと思えます。
ブロム15	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医学研究科・助教 當山 まゆみ 『介護施設における健康管理とICT』	自分の研究に関連して紹介したい本	『認知症世界の歩き方』 筧裕介、認知症未来共創ハブ(監修) ライツ社	認知症の患者さんには世界はどう映っているのか？専門職の立場から専門用語で片づけてしまうことが、ご本人の視点からわかりやすく表現されていて目からうろこです。最近、オンラインゲーム型プログラム「認知症世界の歩き方 Play!」もでたようです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『私は誰になっていくの？—アルツハイマー病患者からみた世界』 クリスティーン・ポードン、檜垣陽子（訳） クリエイツかもがわ	若年性認知症のご本人が書いている本です。「ご本人の言葉」で書かれており、大変興味深いです。認知症の方の支援に活かせるポイントが多く盛り込まれている点がお勧めです。
		今ハマっている本	『ケーキの切れない非行少年たち』 宮口幸治 新潮社	ちょっと前に読んで、非常に考えさせられましたし、今も考えています。漫画も出ています。お笑い芸人のカズレーザーさんもお勧めしていました。
ブロム16	研究者と立ち話（ポスター/展示） 白眉センター・特定准教授 田原 弘量 『ナノって何なの？光と量子で探る科学』	若者にお勧めしたい本	『人間の未来 AIの未来』 山中伸弥、羽生善治 講談社	これから新しいことを始める人に気づきや勇気を与えてくれる本です。AIと比べながら人間とは何なのかについて対談スタイルで書かれています。雑談や裏話が多いので、どんな人でも気軽に楽しく読めるのでおすすめです。
		今ハマっている本	『パン どうぞ』 彦坂有紀、もりといずみ 講談社	こどもといっしょに読むと楽しいです。はいどうぞとすると、パクパク食べます。
ブロム17	研究者と立ち話（ポスター/展示） 生命科学研究科・教授 松田道行 『“みる”から始まる研究の世界』	若者にお勧めしたい本	『たね そだててみよう』 ヘレン・J・ジョルダン、ロレッタ・クルピンスキ(イラスト)、さとうよういちろう（訳） 福音館書店	観察することの面白さを伝えてくれる本です。種を植えて、数日後に取り出して、見えない土の中で何が起きているかを調べているのですが、絵本とは思えないほど本格的な実験計画です。ぜひおうちで試してもらいたいなと思います。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『城砦』 A.J.クローニン、竹内道之助（訳） 三笠書房	純粋に面白い。青臭いけど。十代でこれ読んで医学研究やってみたいと思いました。残念ながら日本語訳は絶版になって久しいです。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
フロム18	研究者と立ち話（ポスター/展示） エネルギー科学研究科・講師 森塚 武史 『生体鉱物で身体を治す素材をつくる』	今の仕事（研究、進路）を選ばなかった本	『医学生』 南木佳士 文藝春秋	著者が秋田大学医学部で実際に医学生だったころをモチーフにして書いたとされる名作中の名作。今にして思えば、本書が医学のお手伝いをする「生体材料学」という分野を志すきっかけの一つだったように思います。エリート養成機関が舞台の話にしては実に泥臭く、切ないエピソードが満載です。人の命をあずかる仕事に就くことの大変さが、内臓をえぐられるかのようなリアルな筆致で描かれています。
		今ハマっている本	『うつ病九段：プロ棋士が将棋を失った一年間』 先崎学 文藝春秋	学生時代に将棋部だった私がずっと憧れている、将棋の先崎学九段の実体験が綴られた本です。2019年、大宅壮一ノンフィクション賞候補作。なお私は、先崎先生のお兄様が著名な精神科医であることを、この本で初めて知りました。
		若者にお勧めしたい本	『挑戦：常識のブレーキをはずせ』 藤井聡太、山中伸弥 講談社	将棋界の第一人者・藤井聡太竜王と、IPS細胞研究のノーベル賞受賞者・山中伸弥先生との対談集です。今もなお、さらなる高みを目指されて走り続ける両先生との対談は、将棋やIPS細胞研究はもちろんのこと、AIと人間の関わり、新型コロナウイルス、研究者としての御半生等に渡って繰り広げられ、私も非常に興味深く拝読いたしました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『人類を変えた素晴らしい10の材料：その内なる宇宙を探索する』 マーク・ミーオドニク、松井信彦（訳） インターシフト	医療、情報、電気、食生活、交通、…私たちは普段何の疑問もなく最新の科学技術を楽しみながら日常生活を送っておりますが、それらを根幹で支えているのが「材料」の技術です。本書では鋼鉄、ガラス、紙、プラスチックなど、陰ながら私たちの生活を支えている10の材料にまつわるエピソードがまとめられています。なお第10章では、高齢者の生活を支援するインプラントについて語られています。
ノース2	研究者と立ち話（ポスター/展示） 経営管理大学院・研究員 柳 淳也 『LGBTQや多様なアントレプレナー』	若者にお勧めしたい本	『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』 森山至貴 筑摩書房	これからLGBTQについて学びたいと思っている人に、ぜひ読んでほしい本。LGBTとはなにか、といった基本的な情報から、欧米におけるLGBTの歴史やそこから派生したクィア・スタディーズの概観をサラッと学ぶことができます。異性愛規範やクィアについて学ぶことで（このあたりの記述にも真を割いているのがこの本の魅力なのですが）、自分のこれまでのセクシュアリティやジェンダーに対する価値観が揺らかもしれません。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『イノベーション概念の現代史』 ブノワ・ゴダン、松浦俊輔（訳）、隠岐さや香（解説） 名古屋大学出版会	社会や環境、経済の課題に対する解決策として、近年ますます「イノベーション」が必要であると言われるようになってきました。こうした「イノベーション」概念が、なぜ、現代の新たな宗教となり、施策等に組み込まれていったのでしょうか。その言葉の由来に遡り、「イノベーション」概念の系譜を科学技術の発展や経済的成長と絡めて、批判的に辿る一冊。
		今ハマっている本	『マツタケ：不確定な時代を生きる術』 アナ・チン、赤嶺淳（訳） みすず書房	マツタケを中心に、資本主義による森林伐採・生態系の破壊、破壊からしか生まれ得なかった人間以外のものたちと人間との出会いとその関係性を見事に描いている人類学的研究です。グローバルな帝国主義的資本主義の影響下における個人とその中で生き延びようとする主体的行為、その絡まり合いの複雑さを複雑なまま捉えようとした、知の結晶。翻訳も素晴らしい難解ではなく、小説のような筆致なのでスラスラと読めると思います。
		今の仕事（研究、進路）を選ばなかった本	『ヤバイ経済学：悪ガキ教授が世の裏側を探索する』 スティーヴン・D・レヴィット、スティーヴン・J・ダブナー、望月衛（訳） 東洋経済新報社	学部生時代に読んで衝撃を受けた本です。逸脱したコミュニティ等に入り込み、犯罪や、不正などの実態を、統計的な手法を使って相関関係を明らかにする本書は、研究のおもしろさを直感的に感じさせてくれるものでした。今でこそ、すべての人々の行為を操作化し、金銭的価値に落とし込んで、分析することに対して個人的には批判的ではあるのですが、今でも、読み物としては面白い一冊です。
ノース3	研究者と立ち話（ポスター/展示） 工学研究科・教授 乾 晴行 『『ランダムさ』を活かす新しい材料設計』	自分の研究に関連して紹介したい本	『ハイエントロピー合金：カクテル効果が生み出す多彩な新物性』 乾晴行 内田老鶴園	出展代表者が代表を務める新学術領域研究「ハイエントロピー合金：元素の多様性と不均一性に基づく新しい材料の学理」の初期の成果をまとめたものです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『金属間化合物入門』 山口正治、乾晴行、伊藤和博 内田老鶴園	耐熱材料の中のエース、金属間化合物について平易に述べられている。
		今の仕事（研究、進路）を選ばなかった本	『耐熱合金のおはなし』 田中良平 日本規格協会	高温耐熱材料がいかにCO2削減、省エネルギーに寄与しているか、どのようにして材料設計が行われているのかなどについて初心者にもわかりやすく書かれた本で、非常に感銘を受けた。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ブース5	研究者と立ち話（ポスター/展示） 白眉センター・特定助教、特定准教授 東島沙弥佳、田原弘量 『研究の魅力を見出す“鏡”プロジェクト』	自分の研究に関連して紹介したい本	『草原の掟：西部モンゴル遊牧社会における生存戦略のエスノグラフィ』 相馬拓也 ナカニシヤ出版	鏡プロジェクトの一員である相馬氏が出した最新の本です。カバーも自分で制作したというこだわりの一冊。大草原で生き抜いてきた人々の生活の知恵をまとめあげています。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『ブータンの小さな診療所』 坂本龍太 ナカニシヤ出版	鏡プロジェクトの一員である坂本氏が、自身のブータンでの医療経験を綴った一冊。文化や風習、そもそも健康というものに対する概念が異なる他国での医療活動に情熱をもって取り組んだ彼が感じたこと・経験したことが満載です。
ブース6	研究者と立ち話（ポスター/展示） 複合原子力科学研究所・准教授 北尾真司 『原子核を活用した超精密な分析と応用』	若者にお勧めしたい本	『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 岩波文庫	固いテーマについて子供向けに読みやすく書かれた名著としてよく推薦される本ですが、昭和12年に書かれたことを考えると、その普遍的な内容に驚かされます。大人になってから読み直しても新たな発見や気づきがあると思います。
		今ハマっている本	『量子力学の奥深くに隠されているもの：コペンハーゲン解釈から多世界理論へ』 ジョン・キャロル、塩原通緒（訳） 青土社	量子力学は、一見奇妙ですが、それに反する実験は一つも見つかっていない完成された理論です。量子力学は物理学では計算の道具になっていますが、その奇妙さを日常世界の常識で「解釈」しようとする、非常に難しく、現代の物理学では、まだうまく解釈できていないことに悩まされます。縦書きの本で、数式は出てきません。
ブース7	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【14:00-16:00】 東南アジア地域研究研究所・教授 河野泰之 『日本とASEANの共創メカニズム』	若者にお勧めしたい本	『反殺物の人類史：国家誕生のディープヒストリー』 ジェームズ・C・スコット、立木 勝（訳） みずす書房	本書は、狩猟採取社会から農耕社会への変化の過程を、メソポタミアを舞台として描くものです。人が生き延びていくうえで、既存の何か、権力であったり、国家であったり、制度であったり、を活用すれば依拠しない、すなわちアナキーであること、の意義を改めて認識させてくれます。
ちゃぶ1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【10:30-12:30】 生存圏研究所・助教 田鶴寿弥子 『文化財のかけらを通してみる人と木の歴史』	若者にお勧めしたい本	『日本建築集中講義』 藤森照信、山口晃 中公文庫	飛鳥時代から昭和時代にかけての著名な建築を、専門家がちよつとちがった角度からユーモアを交えて解説する本です。私が過去に樹種や年代調査でかかわった建造物も複数掲載されているのですが、何度読んでもこやりとできる建築の入門にぴったりの本です。
		若者にお勧めしたい本	『柿の種』 寺田寅彦 岩波書店	この本の中に、「花が樹にくっついている間は植物学の問題になるが、樹をはなれた瞬間から以後の事柄は問題にならぬそうである。学問というものはいくらも窮屈なものである。」と、学問の有り方に疑問を投げかけている言葉があります。寺田氏により、窮屈など形容されたそのような学問は今、分野横断型や学際研究という名前で、様々な分野で徐々に進められるようになってきています。研究に行き詰ると、いつもこの本をパラパラと読み返します。
ちゃぶ2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【10:30-12:30】 エネルギー科学研究科・助教 松井隆太郎 『高強度レーザーが切り拓く極限科学』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『関ヶ原合戦：戦国のいちばん長い日』 二木謙一 中央公論新社	小学生の頃に読み、漠然と研究者にあこがれるようになりました。現在の研究分野とは異なりますが、はじめて本格的な学術書に触れた時の感動は今でも心に残っています。関ヶ原合戦の実態は諸説あり、近年では「関ヶ原の戦いはなかった」とする説まで出ていますが、時間軸をもとに丁寧に解説している本書により、流れを中心とした全体像をつかむことができます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『非線形波動の物理』 田中光宏 森北出版	非線形方程式が支配する現象は、私たちの身近に数多く存在します。例えば、地球の反対側で起こった大地震によって日本の沿岸に到達する津波は、物理でよく知られたソリトン（孤立波）の典型例であり、KdV方程式という非線形方程式の解となっています。つまり、津波のふるまいを数学的に予測することができます。本書は、KdV方程式等の複雑な方程式を、車の交通渋滞などの分かりやすい例を用いて丁寧に解説しています。
		今ハマっている本	『精神科医が教える ストレスフリー超大全：人生のあらゆる「悩み・不安・疲れ」をなくすためのリスト』 樺沢紫苑 ダイヤモンド社	アドラーという有名な心理学者は、すべてのストレスは人間関係から来る！と言い切っているそうです。つまり、私たちが日常的に抱えているストレスは、人間関係からくるものだといえます。私自身は心理学の素人なので詳細は分かりませんが、本書は人間関係を中心としたストレスを和らげる考え方が紹介されています。研究生活から生じるストレスの解決方法として大変参考にしており、精神的にも大変楽になりました。
		若者にお勧めしたい本	『できる研究者の論文生産術：どうすれば「たくさん」書けるのか』 ポール・J・シルヴィア、高橋さきの（訳） 講談社	学生や研究者などにとって、論文を書くというのは大変な作業です。研究成果は論文発表という形で世間に公表して初めて財産となりますが、研究のスピードと同等に論文を進めるのはなかなか難しいものです。本書は、「どうすれば論文が量産できるか？」という視点で、非常に有益な処方箋が紹介されています。私自身、何度も本書に目を通しながら論文を執筆中です。

ブース 番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	書名／著者名／出版社名	推薦理由、コメントなど
ちゃぶ3	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【10:30-12:30】 白眉センター・特定助教 東島沙弥佳 『失くしたしっぽは「ひと」を知る鍵?!』	自分の研究に関連して紹介したい本	『日本の昔話』 柳田國男 新潮文庫	おとぎ話の中には、我々人がどのように周りの環境を捉えてきたのか雄弁に語るものがあり、おもしろいですよ！
		今ハマっている本	『日本書紀 全現代語訳』 宇治谷孟 講談社学術文庫	ドラマチックで展開が早い！読んでみるとツッコミどころが多くて楽しい。
ちゃぶ4	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【14:00-16:00】 医学研究科・講師 片岡正子 『いろいろな目で乳がんをみる』	自分の研究に関連して紹介したい本	『レディオミクス入門』 有村秀孝（編）、角谷倫之（編） オーム社	レディオミクスという分野は画像の研究でよく用いられている解析法であるが、本書はその背景や得られた数値の意味が丁寧に解説してあるため、画像解析の専門家でなくとも理解しやすい。これから画像解析の研究を始める人向け
ちゃぶ6	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話【14:00-16:00】 理学研究科・助教 宇高寛子 『ナメクジ、お嫌いですか？』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『動物学がわかる。』 アエラムック「学問がわかる。」シリーズ 朝日新聞社	生き物を研究したいと考えていた時に出会った一冊。自分が知っていたよりもずっと多くの研究分野があることを知ることができました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『カタツムリ ハンドブック』 武田晋一（写真）、西浩孝（解説） 文一総合出版	ちゃんとナメクジも載っています。一部の学名が改訂されている第2版以降が特におすすめです。
		若者にお勧めしたい本	『カイメン：すてきなスカスカ』 椿玲未 岩波書店	ナメクジと同じくどんな生き物かやや知られていない、カイメン。文章で知る知識だけでなく、カラー写真と美麗イラストが目にも嬉しい一冊です。

京大力、新輝点。



パークプラザ3階共通ロビーにて
「研究者の本棚」関連コーナーを設置しています！
是非お立ち寄りください！

(場所：ロームシアター京都 パークプラザ3階共通ロビー)